

午前に引き続き、市政一般質問を行います。13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 議長の許可が出ましたので、皆様、改めましてお疲れさまでございます。13番議員、政友クラブの波田政和でございます。

市長をはじめ関係部署の皆様、我々議員の質疑に対し真摯に取り組んでいただいていることで、市民の皆様方へ行政運営や議会活動への御理解がさらに深まっているものと確信を持っております。本当に御苦労さまでございます。

今回は、私が所属する総務文教常任委員会の調査項目でもあり、先日、総務文教常任委員長の調査報告の中で詳しくはお話ございましたが、市民皆様方へ比田勝市政が対馬市の人口増対策への取組施策をどのような形で取り組んでいるのか具体的に知っていただくため、あえての質問としております。

人口流出の最大の要因は、島が豊かでなくなり、暮らしやすさが遠ざかっていることだと私は感じております。逆転の発想で共に取り組んでいきたいものでございます。まちづくり、しまづくりを基に3項目お尋ねしてみたいと思っております。簡単簡潔な御答弁に期待し本題へ入らせてもらいます。

まず、1項目めの通告でございますが、お試し住宅を市が提供し、利用していただき、対馬を幅広く知ってもらい、定住へとつなげる試みの事業であります。厳原市内にあるお試し住宅の活用で提供場所により利用頻度に大きな差のデータが出ていますが、なぜでしょうか。事業開始と御案内を打ち出し、取組がなされていたのですが、成果が薄く残念であります。また、薄い要因として何か問題点があったとするならばどのようなことがあったのか。そして、このお試し住宅について事業成果とでもいいですか、定住へのつながりの案件などあったら御報告と御説明をよろしくお願いします。

そして、2項目めの対馬市長公舎についての御提案であります。通告しておりますとおり、当初の購入目的などは分かりかねますが、国分にあるお試し住宅としての活用物件であります。年間3分の2の空室であり、市内一等地での提供活用では初期の目的に遠いのではないのでしょうか。考え方、捉え方、様々あると思いますが、私は本庁にほどよく近く緊急時でも早急な対応ができる公舎があるべきだと常々思っておりました。市長公舎としての利用が私は最も適していて有効利用ができるのではないのでしょうか。一つの事例であります。教育行政の中で職員住宅とか管理職住宅、地域に密着し住民に安心をしていただける意味からも整備がなされてきていると思っております。だとするならば、市長専用公舎があるのは当然だと思っております。市の財産でもある住宅が朽ち果てることがないよう、付加価値を高めるためにも強く望む所存でございます。

3つ目としまして、川端沿いの石畳路面对策について再質問させていただきますが、以前もお

尋ねておりましたが、結果として改善されることもなく、補修しながらの放置。こちら辺で抜本的に問題に取り組んではいただけませんか。近日は、観光を初めてする団体旅行者も増えつつある中、最大限おもてなしの精神を発揮していただくためにも努力をしていただきたいものであります。人口減に対して、流動人口対策が重要である認識が各施策に組み込まれていることでもありますので、まずは定着住民が住んでよかったと感じられる地域づくりが最も重要な課題であると共通認識のはずであります。

通称であります。厳原の横町線拡張整備工事も完了を迎え、安全対策も完璧になるのか。川端と国道沿いの接合部分の周辺整備の遅れを感じておりますので、あえてここで質問としておりますが、何か対策とか考え方とか、以前の質問の折、時間も経過しておりますので、何かありましたら答弁をお願いします。

次に、まちづくりの基本中の基本とも言える市内川端商店街の空き店舗復活へ向けての対策が急務です。活気がなくなり衰退が進み、人の流れが変わったことも人口流出につながっているのではないのでしょうか。自己責任、自己解決とはいえ、行政主導でのまちづくりの時が来ていると思うので、私はあえて市長にこの件もお尋ねしておきます。

以上、後、再質問をさせてもらいたいと思っておりますが、よろしく御答弁を簡潔にお願いしておきます。

○議長（初村 久蔵君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 波田議員の質問にお答えいたします。

初めに、厳原市内のお試し住宅の活用と成果についてでございますが、お試し住宅は、対馬市に移住を希望または検討され、住居、就職先、生活環境の確認等、移住目的で来島される方で利用を希望される場合、1日1,000円で最高14日間の利用をしていただいております。

1点目のお試し住宅の利用頻度の違い及び利用した方の感想と定住につながった事例についてでございますが、令和5年度の利用申込みは11件、利用者は20人で、延べ利用日数は152日であります。個別の利用状況は日吉Aが4件の5人で48日間、日吉Bは設備改修が必要なため0件、国分住宅は7件の15人で104日間と、利用頻度に違いがございます。国分住宅は、移動手段、買物等において利便性がよいことから、日吉住宅に比べ利用目的が多くなっております。日吉Bは、担当部署から、ボイラーの形式が古く、修繕ができないため交換する必要がありますが、県からの貸与物件で今後も老朽化に伴う施設改修費をつぎ込むことが予測されること、現状、日吉B以外の2棟でやりくりができており、問題が生じていないことから、早急に改修しなくても対応が可能であると報告を受けております。

お試し住宅の利用については、入退居時は立会いの下、利用していただいておりますが、利用申込み時と入居時に利用目的や市内での行動計画等を伺い、目的に沿っていない場合は利用をお

断りしております。また、退居時は行動実績、体験後の移住意思や不安、不便なことなど、移住に際し重要視するポイント等のアンケートを行っております。その中で利用者が最も重要視されているのは、移住後の住宅、就職先の確保、次に医療、子育て環境等となっております。利用者の感想としては、「山と海が生活に溶け込み、開放的で移住したい」「移住したいと思う」など、よい評価を受けております。日吉住宅の利用者からは「移動、買物等が不便で虫が多い」という意見をいただいております。一方、国分住宅は「移動、買物等が便利で住み心地もよい」という意見をいただいております。

平成29年度から令和5年度までのお試し住宅の利用件数は54件で、うち25件、39人の約40%の利用者が移住されております。移住後は、建設業、水産業、サービス業、観光業、医療職等の分野に就職されている方や、定年退職を迎え、第2の生活拠点として対馬市を選択され、移住されている方もいらっしゃいます。

次に、2点目のお試し住宅の国分住宅を市長専用公舎としての有効活用はできないかとの質問でございますが、防災、緊急時の即時対応等を考えると、本庁舎に近い国分住宅はよい物件ではありますが、国分住宅は市長公社ではなく、広域的な人事に伴い職員住宅の不足を解消するため、市職員住宅として購入しておりました。

しかし、平成30年度から野良職員住宅を市職員住宅として設置したこともあり、令和2年度にお試し住宅として用途変更、所管替えを行い、令和3年度から対馬市移住・定住促進住宅条例施行規則に定め、運用しております。お試し住宅として活用するため、設備の改修に離島活性化交付金を活用していることから、補助金返還が生じる期間はお試し住宅以外の目的には使用が困難であります。

本市の人口減少抑制対策の一環として移住定住を促進する必要がある中、国分住宅につきましては引き続きお試し住宅として活用していきたいと考えておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

次に、厳原市内の川端沿いの道路改良補修の進捗と空き店舗の活性化対策への取組についてでございます。

初めに、国道382号、通称東川端通りの石張り舗装についてでございますが、議員御指摘のとおり、経年劣化が著しく、アスファルトでの部分補修箇所や石材の凹凸により特に歩行者の通行に支障があると感じているところでございます。

本案件につきましては、令和3年12月定例会におきまして、議員からの御質問に対しまして、「県といま一度、協議、連携し子どもから高齢者まで暮らしやすいまちづくりを目指します」と答弁させていただきました。

その後の取組といたしましては、当路線を所管します対馬振興局と協議をしているところでは

ありますが、石張り区間、遊月橋から佐野屋橋までは延長約440メートル、面積にしまして約2,200平方メートルございますので、県も改修に適する交付金等を模索している状況だと伺っております。

市といたしましては、県と協議を重ねる中で、国道であっても都市計画事業であれば交付金を活用し、県に代わって整備が可能であることを確認いたしましたので、市街地の全体的な整備計画を策定し、国道の路面補修や横町線との交差部の欄干改善なども計画に盛り込み、国道を改良する最終的な手法として市が事業主体となり整備を図ることも想定しているところでございます。しかしながら、計画策定から国の承認や県との費用負担の協議などに期間を要しますので、御理解賜りますようお願いいたします。

最後に、川端商店街の空き店舗復活対策についてでございますが、最盛期の川端通りは、小売店舗に加えスーパーマーケットなどが集積し、買物客でにぎわいを見せておりましたが、議員御指摘のとおり、現在は空き店舗が目につく状況でございます。空き店舗の要因としましては、人口減少や高齢化などによる消費者の減少と担い手不足などが考えられ、さらにコロナ禍の影響も大きかったものと思われま。

コロナ禍以降、観光客も徐々に戻りつつあり、国際航路の再開によってインバウンド観光客が川端通りを歩く姿を目にするようになってまいりました。かつては厳原のメインストリートであった川端通りは、城下町厳原の風情を残しており、市民のみならず観光客を消費者として呼び込み、活気を取り戻していくことがにぎわいのあるまちづくりにつながると考えております。このためにも議員御質問のとおり、空き店舗復活対策と住みよいまちづくり環境の整備についてどのようなニーズがあるのかを把握する必要があります。その上で、まずは関連部署との横連携への協議を図りながら、具体的な方策といたしまして地域マネージャー制度を活用し、地域の方の声を聞いてみたいと考えております。また、この川端地域の再生プロジェクトを広く公募することもちろんでございますが、このことを市民間に広く公募して、市民の意見を吸い上げていくことも重要ではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。通告の順番を変えて再質問しますが、まず初めに、国分にあるお試し住宅の件から再質問してみたいと思いますが、用途変更とか所管替えしながらやってあることも十分に理解しております。先ほど市長答弁の中にも災害対策の緊急時の話も出ましたが、まさにそのとおりなんです。だから、こういう用途変更とか所管替えというのは事務的作業であって、変えようと思えば変えられるじゃないですか。私が言っているのは、対馬市の市長が借家住まいなんです。けしからんと思っております。そういった意味から、

今後まちづくりをするために、やっぱり本当に緊急時でどういう対応もできるような場所が見つかって、あったとするならば、最優先しながらでも私は住民サービスに應えるべきだと思うから、あえて話をしております。先ほどから言いますように、考え方はいろいろあります、捉え方もあるんでしょうけども、やっぱり衣食住は人間の基本中の基本です。そういう中で、住まいがふらふらしとったらいかんじゃないですか、市のトップがという気持ちで、今回あえて言っております。いろんな意見があると思います。あっても私の意見を言っているわけですから。だから、それで今言うように、所管替えとかいろいろ手続上ややこしいんですよという話も理解しての話をしております。ややこしいからやるんです。やってサービスに应运えてください。この辺はまた機会があったらお話ししたいと思っております。

それと、続きまして、もう答弁はいいです。川端商店街路面对策、空き店舗、これ2件、一緒に話させてもらいますが、これから話すことは対馬の定住促進につながる住民サービスを一貫して一議題として話を進めていきたいと思っております。

まず、これは昨日、今日始まった話ではなく、もう分かり切った話なんです。市長もたまには川端を通りながら繁華街に行かへるかもしれませんけども、やっぱりつまずかんようにしてください、けがしたらいかんけん。そういった状況なんです、実は。

そして、以前も取り上げました横町線の国道の接合部分の橋、先ほど同僚議員が豊玉の橋の話があったときに、大きなカーブミラーでもつけて対策をやってみろうという話もなされました。だから、何とか話があったときには対策を取っていただきたいという思いで、あえて質問しております。そして、その話は内山部長にも機会があるたびに話しておりますので、また新たに抜本的に考えてください。

それから、この空き家対策の件なんですけども、先ほど説明がありますように、団体客とか観光客とかいろいろ散策する中で目立っております。自己責任で、自己決定で、自己解決、他人の財産ですから、市が云々かんぬんできないと思います。しかしながら、活性化させるためには誰かが号令かけてやらないかんじゃないですか。そういった意味で、市長がやる事業以外は民間任せではなくて、やっぱりいかにどうしてまちおこしをしていこうかということに力を入れてもらいたいんです。そろそろ本気を出してもらって、何かをつくっていただきたいと思うから、あえて話をしております。

先ほども言いますように、続けて3問目に入っていきますが、市長が今回の所信表明の中でも、皆さんがもう感じてありますけども、強く語られることというのは人口対策ですよ。流動人口を止め、いかに人間を、定住を増やしていくかということが私の今回の問題とするところなんです。我々はまず何のためにこういった人口対策をやっていかなくちやいけないのかということなんです。対馬が、先ほど言いますように、第1次産業が低迷して、もう島が豊かじゃなくなっ

たから出ていくと。出ていくと言ったらおかしいですね。次の新天地を見つけていくというのが減の傾向やと思うんですけども、我々地方公共団体とでも言いましょうか、一口で言えば。1人の人が増減、地方交付税の処置からでもいいですが、分かりやすく説明できますか。1人出たら幾ら地方交付税入ってくるのだ。また、来れば入ってくるんだというような指標とでもいいですか、計算式があるはずなんです、その辺をお分かりの方がおればちょっとお聞きしたいんですけど。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、三原立也君。

○しまづくり推進部長（三原 立也君） 波田議員の御質問にお答えさせていただきますけれども、詳細なところではございませんが、人口が増えることで、普通交付税の算定においては人口の測定単位等に反映がされます。しかし、これによって普通交付税が増えるということではなくて、影響を与えることにはなろうかと思えます。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 全然分かりません、そんなことでは。要するに、私がお聞きしているのは、1人出たら幾ら減るんです、増えたら幾ら増えるんですよというのが財政じゃないから分かりづらいかも分かりませんが、なぜこの話をしたかという、市長がたくさん力入れた話をしてあるんですけども、目標設定をしていただきたいんです、私は、市長。1年で1,000人増やそうと、1,000掛ける幾らと出ればやりがいがあるじゃないですか。今ではただ絵に描いた餅で、市長は5つの戦略の中で話をしてあるんです、空き家対策とかいろんなもろもろの定住施策まで。しかしながら、書いてあるだけであって、そしたらどのくらいやってみようやないかというようなことも大事じゃないかなと思うんです。例えば、市役所500人おったら、500通りのデータがあつていいじゃないですか。そのくらいのやる気を出してもらいたいです。職員に頑張ってくださいという意味じゃないんです、我々も同じことなんですけども、その辺を含めて何かありましたらよろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほどの1人当たりの換算額と申しますか、私のほうが大体把握しているのが、要は1人当たり約28万から29万ぐらいに換算されるということでございますけども、これは基準財政需要額のほうに反映をされる。ただし、これからまた住民税とかいろいろなところが差し引かれるということでございますので、はっきりとした金額は現在のところはつかめていない状況でございます。それと、その後、このような状況の中で目標額を設定してはどうかというような御意見だったとは思いますが、人口減の抑制については目標人数をもって突き進んでいきたいわけでございますけども、この金額においては、このことで、では幾らの交付

税等の加算を目指すのかということについては、先ほど申しましたようなことでなかなか目標額が立てづらいということで御理解をお願いしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 市長、そうじゃないです。私の言っているのは、金額を言っていないんです。人口増に対して、何人ぐらいを目標として1年間取り組むのかということなんです。しかしながら、それをするためには算出基準というのがあるじゃないですか。そこを最低、今市長、数字も言われましたけども、少しどうなんですか。また後ほど正解を言いますけども、そういった意味で人数です、市長のやらんとするためには。もう一度お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 人数はなかなか難しい質問でございますけども、要は今、この少子高齢化の環境の中で、私としましては、まず人口減を抑制したい、対馬から出て行かれる方、要するに転出でございますけども、ここよりもむしろ移住で対馬に入ってこられる社会枠、こういったところのほうをむしろプラスにしていきたいということで、明確な人数は示してはいないということでございます。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） すみません、質問の仕方が悪いんでしょうけども、共通認識を持ってもらいたいのは、我々地方は地方交付税を財源として住民サービスをやっておりますよね。そういう中から、まず目標設定がないといろんなものは戦いができないということなんです。そういった意味から、私が調べた範囲では人口構成が急激に減ってもあんまり変化はないんです、地方交付税に差はないんです。差がないというように研究してあります。全く、読めばなるほどなと思います。だから、市長は分かっと思ってしないのかと、私はこういうふうに思っているんです。掛け声をかけとけばみんな納得するやろうと。そうじゃなくて、このためにこうしたいと。算出基準は、また後に調べていただければ分かると思いますけども、人口が減っても財源はそんなに影響はありません。それは国が決めることですから。しかしながら、いろんな企業誘致とかそういったもろもろを入れながら市に直接入ってくるお金を増やしていこうというようなことをやっていって、市が活気づかなくちゃいけない、対馬が。それはもう当然なことだと思っております。だから、私どももそうですけども、交付税措置の在り方とか流れをもう一度お互い勉強したいなと思っております。そうせんといろんなことを掛け声だけで終わるんです。もう市長、20年たっても何も変わらんじゃないですか。そこを考えたときに、分かって取り組む、分かってそのままやるのは非常に違いますから、うそは言ったらいかんけど、はったりでもいいけん、数を言ってくれませんか、みんなで頑張るけん。もう一度お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大変申し訳ございません。私、ちょっと今勘違いしておりました。今、対馬市のほうで長期人口ビジョンを立てております。この長期人口ビジョンの中で対馬市の人口目標値ということで、2025年で2万6,700人、2035年で2万3,500人、2045年で2万1,200人といったような目標値を掲げているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりました。その目標値がはっきりしておるなら、我々にも配付していただいて、これに向けていろんなもろもろを共に力入れていこうという話をしてくれませんか。そういった中で、我々は日本国民ですから、国が財源の再配分をしながらやってきているのは事実のことじゃないですか。そういう中で、需要と収入といろんなものを差し引きながら決まっていつているものと思います。だから、今後早いうちに、私とすると流出に対してこのくらいのマイナスがあって、入ってくればこれだけあるという明確なものが数式ですから出ますから、現にもう出ております。だから、そういったところが一つの提示する作業としてお持ち帰りいただいてでも明確に公開したいなと。そして、物事に取り組んでいけば、また違う角度で増へつなげていくのかなと思っております。これまでみたいに流動人口とかいろんな話でインバウンドを中心とでもいうのかな、ちょっといろんなことで一時止まったときは、また違う方法を考えてあったみたいですけども、自然増減だけに頼りよっても駄目じゃないですか。だから、目標を、設定を明確にすれば、それがあっても、なくてもやっていけるんじゃないかなと思っております。だから、私も、先ほどの議員さんの話の中で、離島に住む人間が日本を守っとるんだというのはなかなかいい言葉やなと思いました。しかしながら、離島も本土も国から見れば1人を守るのも一緒のことなんですから、そういったことを考えたときに、憲法に守られております。だから、対馬が、人間が減ろうと増えようと面積は変わらないわけですから、算出基準は一定です。そう考えたときにどうするのかということなんです。先ほどの市長のお話では、お試し住宅も、いや、そうじゃなくて、それを使うことによって40%ぐらいが定住していったんだと、価値があったんだという話をしてありましたけども、それはデータから3分の2も空いとったらそうなのかなと思うじゃないですか。だから、内容は別として、本当で追跡調査でもなされて、そこを利用した人たちが本当に市に定住しておりますか。しとる人もおるかも分からん。そうしたら価値があるかも分からないですよね。だから、言うように価値観の問題ですから、それはもう話す方、聞く方の考え方でいいんです。そういったことから、せっかく先ほど比田勝市政の事業内容を広く知っていただこうと思いながらの話でございますので、よろしくお願ひしたいんです。いろんなデータから適当にしておらないということもはっきりしているわけです。だから、市長が目標を設定しない限りは誰もしません、人口増に対しては。設定さえすれば分かるんです。みんなそれで頑張ろうという気になるじゃないですか、対馬のために。その辺を明確にさせていただ

きながら。私は市役所の転入転出の窓口でも分かる話なんです。それ、ただ書類のだけなんですか。そうじゃなくて、やっぱり出ていく人と言ったら、ちょっと言葉悪いですけども、そういった内容をどうなんですかと聞くぐらいの気持ちもあってもいいんじゃないですか。その辺が住民サービスの一番大事な窓口業務じゃないですか。その辺も考えながら今回はこの話をしております。だから、人間が1人増え、2人増えしたらどうかということを突き詰めるつもりは何もありません。ないんですけども、物事には目標がなかったらみんな戦いはできません。そういうふうなことを私は近頃考えますので、市長、できましたら、くどいですけどそこら辺の設定をやっていただければ、またやりがいがあるんじゃないかなと、職員をはじめそういうふうに思っております。どうですか、もう一度その辺は。答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 申し訳ございません。先ほども答弁いたしましたように、対馬市の人口減少の抑制対策の一環といたしまして、長期人口ビジョンというのを作成しているところでございますけども、これが今年令和6年4月1日付で更新をしております。この更新した将来目標値が先ほど申しましたように来年度2025年が2万6,700名、その10年後の2035年が2万3,500人、またさらにその10年後、2045年が2万1,200人という目標値を立てております。ただ悲しいかな、どうしてもこの今の推計をしていきますと、社人研のほうではこれよりもまださらに人口減少が進んだ資料になるんですけども、我々はこれをいかに止めるか、止めるためには何をすればいいのかといったことをこの中に入れ込んだ上で、この今申し上げました目標値を示すようにしているところでございます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 市長、もう一度尋ねます。分かるんです、それは。だから、市長が目標を立てる以上は、やっぱりある程度の達成するラインというのがあるじゃないですかと言っとるんです。だから、私どもは市長以下みんなで努力しながら盛り上げなくちゃいけない、だから誰がするんですかと聞いているんです。もう一度。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 誰がするんですかという、これは要は行政もちろんそうですけども、行政とまた民間、そして市民の皆様、それぞれがこの目標値に向かって努力をしていくことが肝要ではないかなと思っております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりました。なかなか数字を、数でこうだということはできにくいと思いますけども、もう10年スパンの話を聞いているんじゃないんです、近々。市長は

4年しか任期ないんだから、今から。10年後の話を言っても、それは推移の話じゃないですか。だから、私が言っているのは、もう一度言いますけども、いろんなものを打ち上げるときは、まず目標と数とかなけらんと仕事でやりにくいんじゃないんですかと言っているわけです。もしそれができるようにあったら早めのうちに設定していただきたいと。そして、再度言います。この地方交付税は、人間が減ろうと増えようと関係ございません。その内容はどうかということ、人それぞれ勉強の仕方が違うでしょうから、それはそれでまた個別でやっていただければいいんですけども、我々は、問題として重要視しているのはいかに自主財源を増やすかということだと思っているんです。だから、観光も含めてみんなで島にそういったいろんなお金が落ちるように、みんなで努力するためにいろんな整備をなされてあると思いますので、そこを力強く推し進めていくことが結果としてなるかも分かりませんので、そこも含めてよろしく願いをしておきます。また詳しい話はその辺の専門分野を入れながら話をしていけたらいいかなと思っておりますので、よろしく願いいたしまして、私の質問を終わりとさせていただきます。ありがとうございます。

○議長（初村 久藏君） これで、波田政和君の質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わります。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後1時52分散会

---